

「平成30年度 全国防災ジュニアリーダー育成合宿」 実施報告

- 趣 旨**：2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることを契機に、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震や火山噴火、水害などが頻発している我が国における災害やその対策等の現状を世界にアピールするとともに、次代を担う人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を中心とした防災会議を4年計画で開催する。その初年度として、今年度は兵庫、次年度は東北・熊本を会場として実施し、2020年のオリンピック・パラリンピックイヤーでは、東京を会場として、海外の被災地中高生を招聘して実施し、さらなる取組の広がりを目指す予定である。
- 日 時**：平成31年1月10日（木）17：30～13日（日）12：00
- 場 所**：兵庫県立舞子高等学校、国立淡路青少年交流の家、人と防災未来センター、三宮東遊園地
- 対 象**：兵庫県内外の中学生・高校生および引率教員（県内17校、県外14校）
- 参加者**：102名（県内50名、県外52名）
- プログラムの内容**：

【1日目】 1月10日（木）

20：00 交流会

兵庫県外から集まった中高生30名で交流会を開いた。参加者同士でテーマに合わせて話し合った。テーマの内容を5つ設定し、一つ目の「自己紹介」から最後には「防災ジュニアリーダーってどんな人か？」について、ペアで考えた。開始前に緊張していた表情も、交流会が終わるころには和やかな雰囲気になり、笑顔が見えるようになった。



【2日目】 1月11日（金）

9：00 兵庫県立舞子高校「震災メモリアル行事」

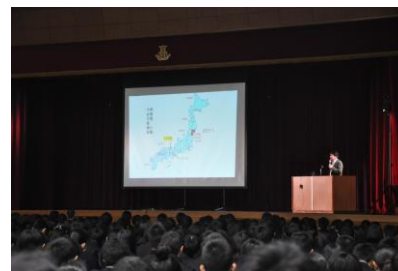
神戸市在住のアーティストBloom Worksさんによる追悼演奏が行われた。東日本大震災における被災地などで、音楽による支援活動を行っており、今回は『171』をはじめとする全5曲を披露してくれた。柔らかく包み込むような声とリズムカルでポップなボイスパーカッションで、家族との絆やふるさとの大切さ、被災地を勇気づける心温まるメッセージを歌にのせて伝えてくれた。

追悼演奏後は、小さな命を考える会代表の佐藤敏郎先生の講演が行われた。東日本大震災を体験された佐藤先生から、当時の様子やこれから何をどうすればいいのかという教訓を伝えていただいた。いのちの大切さについて改めて気づかされた参加者の中には、目を潤ませている人もいた。

15：30 講義①「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」

講師 舞子高校校長 谷川 彰一 氏

はじめに阪神淡路大震災を含む地震がなぜ起こるのか、そのメカニズムや地震の基礎知識について話があった。その後、参加者はグループ形式の活動に移った。阪神・淡路大震災を経験された3名の方のインタビュー資料を読み解き、助け合いの大切さや被災地ボランティア活動、いのちを守ることの大切さをそれぞれが感じ取った。講義終了後には、「震災を知らない世代が知らない世代に語り継ぐ」ことで未来を守っていくという使命感を感じているようであった。



19:50 WS①アイスブレイク&フリートーク

県内外の参加者全員揃っての交流会を行った。「どこから来たのか」、「谷川先生の講義で印象に残っていることは何か」などの質問を添えて、自己紹介してもらった。その後のテーマトークでは、「防災について自分が話し合いたい事」についてそれぞれ班を作り、情報交換をした。初対面にもかかわらず、自分の学校のことを積極的に伝えたり、仲間の話をメモしたりと、防災に対する意識の高さを感じる雰囲気であった。



【3日目】 1月12日(土)

8:30 WS②「メモリアルキャンドルの作製」

講師 神戸市立神港橋高校 堀江 俊志 氏

翌日の三宮東遊園地に飾る「メモリアルキャンドル」を作った。講義中は真剣に防災について学んでいた参加者も、この時には笑顔があふれ、学校も校種も関係なく楽しそうにクラフト活動に打ち込んでいた。蝋の色使いを工夫し、個性的な作品がたくさん仕上がった。



10:40 WS③、④「アクションプラン作成1、2」

講師 兵庫県立舞子高校 和田 茂 氏、太井 義真氏

「県内外参加者、男女、中高生混合」でグループを組み、各校の様々な取組について意見交換を行った。参加者のアンケートからも、この時間が一番充実感を持っていたようで、自身の学校に何かヒントを持って帰ろうと、必死でメモを取っている姿が印象的だった。そのためか「もっと色んな学校の人と話し合いをしたかった」、「他校との交流の時間を増やしてほしい」との意見がとても多かった。



13:00 講義②「災害と向き合う」

講師 防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪 清二 氏

災害の様相と課題について、参加者も考えを述べ、講師と共に考える90分となった。国内で起こった阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震だけでなく、他国で起こった震災についても話していただき、正しい防災の知識をもち、正しい判断をすることの重要性と難しさを参加者は実感した。また、東日本大震災の「釜石の奇跡」を例に、日ごろから防災について考え、備えを行うことが、災害時に自他の命を守ることにつながることを学ぶことができた。



18:30 WS⑤「アクションプラン発表」

講師 兵庫県立舞子高校 佐野 代行 氏

アクションプランの発表では、情報交換を経た参加者それぞれが、各校の現状と課題を踏まえたプランを提示した。他校の参加者からの質問も活発に行われ、短時間の作業だったにもかかわらず、具体的に実現可能な計画に練られているという印象を受けた。単に他校の模倣ではなく、学校や地域の実態に応じたプランが立てられていた。生徒同士で意気投合し、「学校の垣根を越えて一緒に募金活動をしたい」という話にまで広がる学校もあり、各校の取り組みが全国へ広がっていく瞬間を見ることができた。



【4日目】 1月13日(日)

9:50 人と防災未来センター施設見学

阪神・淡路大震災の再現VTRを視聴し、被災当時の様子が分かる様々な展示物を見て回った。参加者達は思い思いのブースで足を止め、震災の爪痕や地震のメカニズムなど、防災について積極的に学んだ。

11:20 三宮東遊園地見学

毎年「1.17のつどい」が行われている三宮東遊園地に足を運んだ。前日に作ったメモリアルキャンドルを『1.17』に並べ、それを囲むように円を作って黙とうを行った。その後、阪神・淡路大震災で亡くなった方々のネームプレートや「希望の灯り」を見学した。最後は、この合宿で出会った仲間との別れを惜しんだり、再会を誓ったりする参加者もいて、防災の取り組みが人をつなぐ様子を見ることができた。



7 参加者の声

- こんなにも知識が増えて、世界観が広がるものなんて他にない。
- 様々なプロジェクトで防災に対する色々な観点を見つけることができた。
- 新しく使える知識だらけで勉強になった。
- いろんな県のいろんな学校の人と交流ができ、たくさんの情報が得られたので良かった。
- 今回学んだことを、学校みんなに伝えていきたい。



8. 所感

- 昨年以上に参加校、参加者が増えたことで、よりたくさんの人とふれあい、情報交換ができる良いきっかけとなった。
- 実績のある多彩な講師の方々にご講演・ご講義いただき、参加型のワークショップは非常に面白かった。参加者の中には、過去に何度もこの合宿に参加したことがある者や、他の防災に関する合宿に参加経験がある者も目立ち、ワークショップ内でもハイレベルな議論がされていた。
- 参加者アンケートからは、「今回の学びや経験を基に、他の生徒に伝えたい」という記述が目立った。この合宿を機にリーダーとしての自覚も芽生え、学びを生かそうとする意欲が感じられたことは良かったと思う。
- 来年度は、東北ブロック・九州ブロックでの開催になるため、花山・阿蘇からの職員の視察もあった。地方が全く異なる施設職員と情報交換をすることで、自施設を見つめ直すよい機会になった。